

# 辞書指導の充実に向けて 入門期が勝負！

新学習指導要領 外国語 でも、

## 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること

と、辞書指導について記されています。

各学校でも、継続指導していると思いますが、「なかなか定着しない・・・。」などという声も聞かれます。



## 辞書指導の目的は？

- ① 子どもを自立した学習者に育てる
- ② 自分の考え、思いをより多様に表現する力を身に付けさせる
- ③ 語彙の習得を助長する

ことです。自己表現活動を自発的に行ったり、家庭での英語学習などに持続的に取り組んだりする上で、辞書を活用できることは必要不可欠です。

辞書を引くことの楽しさを味わわせながら、3年間を通して活用できるようにしたいものです。

辞書を引く習慣を身に付けさせるには、中学校1年生の入門期にどう指導するかがポイントです！！この時期に辞書を引く楽しさや有効性を理解させることが大切です。ただ、引き方を教えるだけではなかなか定着しません。

指導法は、いろいろあると思いますが、実践（英和辞典指導）の一例を紹介します。

## 辞書指導の方法

(入門期)

### スタートは、1年生の1学期から

最初の目標は、文字に慣れること

辞書を引くこと自体が言語活動

- 語を見つける過程で、繰り返し文字がインプットされます。
- アルファベットがまだ書けなくても大丈夫です。

使用方法については、生徒自らの気づきを大切に

- 教師が使用方法を説明しただけでは、生徒は覚えられません。
- 教師による辞書使用法説明の前に、

とにかく何か語を提示し、見つけるよう指示してみてください。

驚くほど真剣にその語を探し始めます。

2～3語同じ活動をした後に、生徒に「なぜ速く語を見つけられたか」聞いてみてください。

生徒たちの答えを聞けば、辞書の使い方を体験から学習したことがわかります。



○ **名** って書いてありますけどどういふことですか？

このような生徒の質問を大切にしてください。

他の生徒が答えることができる質問がほとんどですが、

そうでない場合は、説明してあげましょう。

※ 特に1学期は、語を見つけるのに時間のかかる生徒がいますが、根気強くヒントを出しながら自力で見つけられるまで待ってください。この活動を繰り返すことで1ヶ月後は、全員ある程度の速度で語を見つけられるようになります。なかなか語が見つけれない生徒には、自然と周囲の生徒が引き方をやさしく教えてくれます。

※ 該当語が見つかった生徒が手をあげ、教師が one, two, three...と順番を伝えてあげると生徒が更に喜んでより速く引こうとします。遅い生徒の様子などにも配慮しながらやるとよいでしょう。

## 1年時（少なくとも1学期）は、毎回辞書を引く時間を設定

次の目的は、辞書の有効性への気づき

毎回辞書を引くことで辞書を授業に持ってくる習慣を作る

○授業連絡では辞書を持ってくるように指示しても、

授業で使わなくなると生徒は辞書を持ってこなくなります。

○引かせる語句は、授業の内容に関連づけたものであればより効果があがります。

○生徒の実態に応じてですが、熟語を見つけさせる活動も有効です。

辞書の有用性に生徒が気づくまでは毎時間辞書使用の時間を設定

○わからない語に出会った時、自然に辞書に手が届くようになる姿、

この姿を見ることができるようになればOKです。

○有用性に気づけば、とにかく数多く辞書を引くようになります。

→自立した学習者への第一歩

## 調べた語や気づいた所にはマーカーなどで印をつけさせる

生徒に応じ、語そのものだけではなく新たな発見があった箇所にマークさせる

○電子辞書ではこれできません。

自分だけの辞書づくりをさせましょう。

※ 家庭学習で辞書を活用するような課題をだすのもよいアイデアだと思います。生徒が辞書使用に慣れるまでは、生徒の実態から辞書引きが嫌いにならない配慮も必要です。

入門期の辞書指導と題して一例を紹介しましたが、生徒の実態に応じ工夫していただければと思います。生徒が、辞書を使って、自ら使い方を理解したり、語句の知識を広めたり、新たな表現を見つけたり・・・そのような場面を、授業に設定してみてください。